

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：34439

研究種目：若手研究 B

研究期間：2011 ～ 2012

課題番号：23792750

研究課題名（和文）インドネシア人候補者の異国就労に起因する自国価値観への影響と異文化ストレス

研究課題名（英文）The impact on original values and cultural stress among Indonesian candidates due to working in Japan.

研究代表者 佐藤 文子 (Fumiko Sato)

研究者番号：80512417

研究成果の概要（和文）：本研究では、来日後にインドネシア人候補者らの価値観に変化がみられるか、またそれと関連して、彼らの精神的ストレスの有無や程度を明らかにすることを目的とした。本結果を以前の調査結果と比較したところ、現地医療施設で従事するインドネシア人看護師と、今回の調査対象者との間において「余暇時間」と「政治」に有意な差が見られた。また、精神健康調査の結果、16名（22.5%）の対象者に何らかの問題があるとの結果が得られた。

研究成果の概要（英文）：This research aims to see the condition of cultural values and mental stress among Indonesian candidates by comparing the previous data obtained from local Indonesian active nurses. As the result, the importance of Leisure and Policy were differentiated between the two groups. Besides, 16 candidates (22.5%) were found to be mentally stressed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：経済連携協定、インドネシア人候補者、異文化ストレス

1. 研究開始当初の背景

日本との経済連携協定（EPA）に基づき、近年、インドネシアから看護師・介護福祉士候補者が多く来日している。インドネシア人候補者は、現地の看護師免許の有資格者であり、来日が決まれば、最初の6ヶ月間は日本語教育を受け、その後、各々の施設において就労経験を積むことになっている。彼らの資

格取得までの在留期間は、看護師が3年、介護福祉士が4年と限定されており、この期間中に国家資格を取得出来ない場合、且、特例的な条件を満たさない場合には、本国に帰らなければならないという厳しい制度となっている。2009年度には、フィリピンからも看護師・介護福祉士候補者が来日しており、日本の医療・介護の現場でも、徐々にではあ

るが、グローバル化が進んできている。(2013年5月時点における両国からの看護師・介護福祉士候補者数は1,562名:インドネシア人892名、フィリピン人670名)。

外国人候補者の受け入れについては、受け入れ施設の努力によってか、これまでに表立った大きな課題等は見聞きしていないものの、依然として離職率が高い労働環境のままでは、日本人と同様、外国人候補者も定着するとは考えにくい。しかも、自国とは価値観の異なる現場で就労し、異文化適応が求められることで、日常的に精神的ストレスを感じていることが予測される。

2. 研究の目的

本研究では、インドネシア人候補者(国試合格者を含む)を取り巻く状況を踏まえ、彼らの来日後における従来の価値観への影響と、異文化圏での生活や就労に関連した精神的ストレス(異文化ストレス)の有無を明らかにすることを目的とした。

ここでいう異文化ストレスとは、異なる文化圏で生活する際に、生活習慣の違いや、意思や感情の伝達がうまくいかないことなどから生じるストレスと定義する(三省堂大辞林より)。

3. 研究の方法

2012年11月~2013年3月にかけて、インドネシア人候補者の受け入れを公表している全国の医療・介護施設の担当者宛に匿名のアンケート調査と調査依頼文を郵送した。先方の調査許可が得られた場合にのみ、当該施設で就労しているインドネシア人看護師・介護福祉士候補者に調査票を記入してもらい、匿名で返却していただいた。

なお、調査票は、対象者の日本語能力に配慮し、日本語とインドネシア語の併記で作成した。

調査票の内容は以下の通りである。

(1) 対象者の属性(年齢、性別、出身地、婚姻状況、宗教、家族構成、学歴、看護師経験年数、国家資格取得の有無、現在の生活に対する満足度等)

(2) 対象者の価値観(日常生活における「家族」、「労働」、「宗教」等の重要度)

「全く重要でない」から「とても重要である」の5件法で聞いている。

(3) 精神健康調査に関連した項目(GHQ28)

また、別途、対象者から承諾が得られた場合、より詳細な情報を得るため、聞き取り調査を行うことにした。

4. 研究成果

本アンケート調査は、北海道から鹿児島まで、全国88か所の施設に広く配布をした。その結果、35か所(39.7%)、71名の対象者から回答を得ることが出来た。また、西日本の医療施設で就労する看護師国家試験合格者2名に聞き取り調査を行う機会を得た。以下、アンケート調査の結果である。

(1) 対象者の属性

71名の対象者のうち、57名(80.3%)が女性であり、平均年齢は28.75歳と若く、独身者が70%と多数を占めていた。出身地ではジャワ島が70.4%と最も多く、次いでスマトラ島(19.7%)、スラウェシ島(5.6%)と続いていた。宗教はイスラム教が60.6%と最も多く、次いでプロテスタント(26.8%)、カトリック(11.3%)であった。

表1. 対象者の属性(一部)

項目	内訳
性別	男性 14 (19.7%)
	女性 57 (80.3%)
年齢	28.75歳 (SD±2.781)

出身地	ジャワ島 50(70.4%) スマトラ島 14 (19.7%) スラウェシ島 4 (5.6%) 小スンダ島 2 (2.8%) その他 1 (1.4%)
宗教	イスラム教 43 (60.6%) ヒンズー教 1 (1.4%) カトリック 8 (11.3%) プロテスタント 19 (26.8%)
婚姻状況	独身 49 (69.0%) 既婚 21 (29.6%)

(2) 対象者の価値観

表2の結果は、以前採択した研究課題（研究活動スタート支援「インドネシア人看護師の労働に対する文化的価値観と労働意欲を高める要因の解明」）で調査した現地インドネシア人現役看護師の価値観の結果（左）と、今回の結果（右）とを比較したものである。今回のインドネシア人候補者の価値観をみると、最も重要度が高かったのは「宗教」（4.810）、次いで「家族」（4.758）、「仕事」（4.491）であった。一方、値が最も低かったのは「政治」（2.909）であった。

表2. 価値観の平均値

（全体、現地インドネシア人、インドネシア人候補者）

日常生活上の重要度	現地インドネシア人現役看護師 (N=234)	インドネシア人候補者 (N=71)
家族	4.738	4.758
友人・知人	4.043	4.070
余暇時間	3.781	3.844
政治	2.866	2.909
仕事	4.491	4.491
宗教	4.810	4.810

また、両群間で t 検定を実施したところ、「余暇時間 (P=.001)」と「政治 (P=.020)」の2項目に有意な差がみられた。すなわち、イ

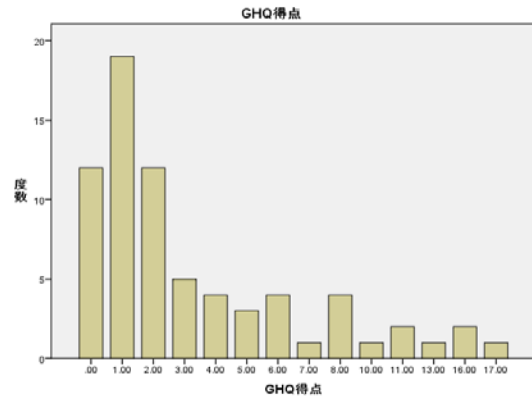
ンドネシア人候補者の方が現地インドネシア人看護師よりも、「余暇時間」と「政治」に対する重要度が高いということが分かった。これは、価値観の異なる日本で生活することによって従来の価値観に何らかの影響があったことが伺える。

(3) 精神健康調査

GHQ28の全調査項目について、回答選択肢の得点を合計した結果、最小値が0点、最大値が17点、平均値が3.46点 (SD±4.07) であった。GHQ得点の分布は表3のグラフの通りである。

GHQ28の合計得点は、5点以下なら健常者、6点以上は何らかの問題ありとされており、今回の調査結果では、55名(77.5%)が5点以下、残り16名(22.5%)が問題ありという結果であった。

表3. GHQの得点分布



次に、精神的健康への影響要因を把握するため、GHQ28の合計点を従属変数、対象者の属性の調査項目を独立変数として重回帰分析を行った。その結果、「現在の生活に対する満足度」と「国家資格取得の有無」が有意であることが分かった。そのうち、前者は、GHQ得点に対して負の影響を与えており、また、後者は正の影響を与えていることが分かった。すなわち、生活の満足度が高い方が、低い対象者よりもGHQ得点が低くなり、また、

国家資格を取得済みの方が（0＝未修得、1＝取得済み）、未修得の対象者よりも GHQ 得点が高くなることが分かった。

表 4. GHQ 得点を従属変数とする重回帰分析

	標準化係数	有意確率
生活の満足度	-.354	.002
資格取得の有無	.299	.009

R=.482、R² =.232

以上の結果より、前後比較した対象者は異なるが、インドネシア人看護師の価値観は来日を要因として、一部の価値観に変化が見られることが明らかになった。これは、日本という異文化圏で生活することで、従来の価値観に影響を受けた結果と思われる。

また、異国で生活、就労している候補者のうち、約 2 割に何らかの精神的健康問題があることが分かった。その要因として、「現在の生活に対する満足度」、「国家資格取得の有無」が影響していることが明らかになった。先行研究によれば、現在のインドネシア人候補者に対する支援の多くは、国家試験対策に関するものがほとんどであり、その結果として、対象者の生活満足度に繋がることはなく、また、国家試験合格後のフォローも確立されていないことから、国試合格者に精神的問題が生じていると考えられる。

また、今回の調査期間中、2 名の看護師国家試験合格者と話をする機会を得たが、彼ら曰く、「国家試験対策についてのサポートは色々あるが、試験に合格してからのサポートがない。できれば、現場でよく使う言い回しであるとか、看護計画の書き方などについてのフォローがほしい。現在は、国試対策に偏重している」とのことであった。

上記の内容は、今回のアンケート調査の結果を解釈する上で非常に貴重な声であると思われる。

日本の医療・介護施設の現場では、今後もインドネシア人を含め、外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れを行っていくと予測されるが、彼らが心身ともに健康で、且、快適に継続就労してもらうためには、各現場において、国家試験対策ばかりではなく、彼らの生活面であるとか、合格後のフォローについても目を向け、包括的・継続的な支援体制を確立していく必要があると思われる。また、今後、支援体制を検討していく上で、既に日本で生活・就労している対象者の声に耳を傾け、彼らのニーズをしっかりと把握した上でそれに合致した内容に基づく支援を展開していくことが大切である。

なお、筆者は、外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れについて、今後の日本社会を支えていく上で非常に重要なものと捉えており、今後も、本テーマについて継続して取り組んでいきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

佐藤文子、インドネシア人看護師の海外就労への関心と職務満足度の比較、千里金蘭大学紀要、査読無、2012 年、129-134

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
 発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 文子 (Fumiko Sato)
千里金蘭大学 看護学部 講師
研究者番号：80512417

(2) 研究分担者 該当なし
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：